平成19年旭市議会第3回定例会会議録

議事日程（第5号）

平成19年9月26日（水曜日）午前10時開議

- 第 1 決算審査特別委員長報告
- 第 2 質疑、討論、採決
- 第 3 常任委員長報告
- 第 4 質疑、討論、採決
- 第 5 常任委員長陳情報告
- 第 6 質疑、討論、採決
- 第 7 事務報告
- 第 8 閉 会

本日の会議に付した事件

- 日程第 1 決算審査特別委員長報告
- 日程第 2 質疑、討論、採決
- 日程第 3 常任委員長報告
- 日程第 4 質疑、討論、採決
- 日程第 5 常任委員長陳情報告
- 日程第 6 質疑、討論、採決
- 追加日程第 1 議案上程
- 追加日程第 2 提案理由の説明
- 追加日程第 3 議案の補足説明
- 追加日程第 4 質疑、討論、採決
- 追加日程第 5 発議案上程
- 追加日程第 6 提案理由の説明
- 追加日程第 7 質疑、討論、採決
- 日程第 7 事務報告
- 日程第 8 閉 会

出席議員（24名）

1番	伊藤保	2番	島田和雄
3番	平野忠作	4番	伊藤房代
5番	林七巳	6番	向後悦世
7番	景山岩三郎	8番	滑川公英
9番	嶋田哲純	10番	柴田徹也
11番	木内欽市	12番	佐久間茂樹
13番	日下昭治	14番	平野浩
15番	林俊介	16番	明智忠直
17番	林一雄	18番	高木武雄
19番	嶋田茂樹	20番	向後和夫
21番	高橋利彦	22番	林正一郎
24番	神子功	26番	林一哉

欠席議員（1名）

25番	伊藤鐵
-----	-----

説明のため出席した者

市長	伊藤忠良	副市長	鈴木正美
教育長	米本弥栄子	病院事業者 管理	吉田象二
病院事務部長	伊藤敬典	総務課長	高埜英俊
秘書広報課長	加瀬寿一	企画課長	加瀬正彦
財政課長	平野哲也	税務課長	野口徳和
市民課長	木内國利	環境課長	平野修司
保険年金課長	増田富雄	健康管理課長	小長谷博
社会福祉課長	在田豊	高齢者 福祉課長	横山秀喜
商工観光課長	神原房雄	農水産課長	堀江隆夫
建設課長	米本壽一	都市整備課長	島田和幸

下水道課長	中野博之	会計管理者	木内孫兵衛
消防長	佐藤真一	水道課長	堀川茂博
庶務課長	浪川敏夫	学校教育課長	及川博
生涯学習課長	花香寛源	監査委員 事務局長	林久男
農業委員会 事務局長	小田雄治	飯岡荘支配人	野口國男
病院經理課長	鈴木清武	病院 再整備室長	鎚木友孝

事務局職員出席者

事務局長	宮本英一	事務局次長	石毛健一
------	------	-------	------

開議 午前 10 時 7 分

議長（嶋田茂樹） おはようございます。

ただいまの出席議員は24名、議会は成立しました。

これより本日の会議を開きます。

日程第 1 決算審査特別委員長報告

議長（嶋田茂樹） 議案第 1 号から議案第22号までの22議案及び陳情第 2 号、陳情第 3 号の陳情 2 件を一括議題といたします。

日程第 1、決算審査特別委員長報告。

決算審査特別委員会及び各常任委員会に付託いたしました議案等の審査結果は、お手元に配布のとおりであります。

配布漏れはありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（嶋田茂樹） 配布漏れないものと認めます。

これより決算審査特別委員会に付託いたしました議案審査の経過と結果について、委員長の報告を求めます。

委員長、高木武雄議員、ご登壇願います。

（決算審査特別委員長 高木武雄 登壇）

決算審査特別委員長（高木武雄） 決算審査特別委員会委員長の報告を申し上げます。

去る 9 月 6 日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案第 1 号、平成18年度旭市一般会計決算の認定について、議案第 2 号、平成18年度旭市国民健康保険事業特別会計決算の認定について、議案第 3 号、平成18年度旭市老人保健特別会計決算の認定について、議案第 4 号、平成18年度旭市介護保険事業特別会計決算の認定について、議案第 5 号、平成18年度旭市下水道事業特別会計決算の認定について、議案第 6 号、平成18年度旭市農業集落排水事業特別会計決算の認定について、議案第 7 号、平成18年度旭市水道事業会計決算の認定について、議案第 8 号、平成18年度旭市病院事業会計決算の認定について、議案第 9 号、

平成18年度旭市国民宿舎事業会計決算の認定についての9議案について、審査の経過並びに結果を申し上げます。

去る9月12日及び13日のそれぞれ午前10時より、議会委員会室において議案説明のため執行部より副市長ほか関係課長の出席を求め、本委員会を開催いたしました。

それでは、審査内容について質疑とその答弁の内容を申し上げます。

初めに、議案第1号について主な質疑5点について申し上げます。

1点目として、平成18年度決算の人件費のうち職員手当については、当初予算と比べ1億円余り減額しているが、その理由は何かとの質疑では、手当の中では、特に時間外手当が大幅に減額をした。これは時間外勤務手当等の取扱いに関する規程というものをつくり、時間外勤務命令を原則1日3時間、1か月30時間以内と定めるとともに、毎週水曜日はノー残業デーということで取り組みを行ってきた。

また、平成17年度は合併の関係で各部門とも残業が非常に多かったという事情があり、だんだんと平年ベースに戻ってきているものと考えているとの答弁がありました。

次に、2点目として、総務費の児童交通安全街頭指導委託料についてその内容はどうなっているのかとの質疑では、朝の登校時の交通安全指導を行うもので旧旭の七つの小学校において、8月を除く週3日間、午前7時から8時まで実施しており、年間168人、時間数としては1,590時間分をシルバー人材センターに委託しているとの答弁がありました。

次に、3点目として、歳入の民生費負担金773万円余りの収入未済金について、どういう状況なのか、またどのように対応しているのかとの質疑では、平成17年、18年の保育料の滞納合計額であり、主に生活が困窮しているため納められないということで、ここ数年間、かなり増えている。対応としては、分割納付あるいは電話や面接、また直接出向いて徴収を行っているとの答弁がありました。

次に、4点目として、土木費の橋梁点検業務委託料について、どの程度の点検をしたのか。また、補修箇所は何か所あり、どのようなものであったかとの質疑では、点検した場所は、川口地先にある無名橋と谷丁場遊正線にかかる更生橋の2か所について、ひび割れや鉄筋に影響が及んでいるか等、細かく点検を行い、結果、川口地先の無名橋は、外観の塗装のはがれ等があったが、影響のない範囲であり、また、谷丁場遊正線の更生橋については、0.1ミリから0.4ミリのひびが見つかったが、橋台、上部の橋げたとも致命的な弱りではなかった。なお、平成19年度は、飯岡の矢指橋の点検を行う予定であるとの答弁がありました。

次に、5点目として、土木費のあさひ健康パーク整備事業について、開設が何か月か延び

ているとのことであるが、その理由は何か。また倒産した業者に前払いした分は、その後どうなったかとの質疑では、開設を当初4月に予定していたが、4月はいろいろとイベントが多く天候不順な関係もあり、また芝の養生もあるので、3か月おくらせて7月に開設する予定である。

また、前払い金については、契約保証金ということで3,611万7,115円が保証され、そのうち3,600万1,615円が健康パーク分、残りの11万5,500円が第二中学校の工事分であり、ともに石川組が請け負ったものである。

健康パーク分の内訳は、前払いしたのものから出来高を引いた2,593万円と違約金997万5,000円、それと前払いした利息分9万6,615円であるとの答弁がありました。

次に、議案第2号の主な質疑2点について申し上げます。

1点目として、平成18年度の不納欠損額については8,234万円余りであるが、その内訳と職業別では、こういった傾向にあるのかとの質疑では、不納欠損額の内訳として5年時効が6,488万1,530円、人数で600人、3年時効は1,744万3,300円、人数で160人、即時消滅が2万1,600円で1人である。

また、不納欠損の職業別での分析はしていないので、国民健康保険税の職業別の滞納状況から一番多いのが会社員、次に無職、年金生活者、その他事業等という状況であるとの答弁がありました。

次に、2点目として、徴収率にかかわる国庫支出金の減額について、対象内容はどうなっているのかとの質疑では、徴収率による国の財政調整交付金の減額については、財政調整交付金として国から交付されているが、その中でペナルティーとして、前年度の徴収率がある一定以上いかなないと減額され、また翌年度に徴収率が改善されると減額された分の2分の1が戻ってくるという制度がある。

当市においては、一般被保険者数が2万人ということで、1万人から5万人の区分となり、徴収率の区分は87%以上90%未満の区分に当たることから、7%の減額となったものである。また、90%以上92%未満であれば5%の減額となり、92%以上にならないと減額されることになるとの答弁がありました。

次に、議案第3号の主な質疑について申し上げます。

一般管理費の当初予算が1,492万円余りで、補正で89万円の措置をしているが、結果、不用額が生じている、これはどういうことなのかとの質疑では、昨年8月1日から制度の改正があり、電算システムの改修を行ったが、その時点においては、国からの補助金の額が決

定しておらず、その後、国から補助金として89万円が確定したためであるとの答弁がありました。

次に、議案第4号の主な質疑について申し上げます。

介護予防関係の配食サービス事業と任意で行っている配食サービス事業では、何か違いがあるのかとの質疑では、配食サービス事業の内容は基本的に同じであるが、介護予防事業で行うと市の負担金は12.5%となり、また任意で行うと市の負担金は20.25%となることから、会計処理上、2本立てにして実施している。現在の対象者は、介護予防事業で53人、任意事業が92人となっているとの答弁がありました。

次に、議案第5号の主な質疑について申し上げます。

下水道の運転業務委託料について、どこに委託しているのか。また、今後、市独自の技術者を育成し維持管理する考えはあるのかとの質疑では、委託業者は9社の見積もり合わせを行い、月島テクノメンテサービスと契約している。また、市独自の維持管理については、処理場の運転業務に資格等が必要であり、職員が資格を取得することも考えられるが、特定の職員となってしまうこともあり、また職員の増員もしなければならないことから、現状としては委託する方が経済的であり状況に即していると考えているとの答弁がありました。

次に、議案第6号の主な質疑について申し上げます。

資源循環型の汚泥分析について毎年行っているようであるが、その結果はどうなっているのか。また、汚泥農地還元業務委託料の内容はどの質疑では、肥料として使用するため毎年分析を行っているいと数値は違っているが肥料登録している。また、農業集落排水事業から汚泥を農地に還元することを国から指導されているが、農家の方には家畜堆肥の方がよいとのこともあり、現実的に進んでいない。今後、産業まつり等で市民の方に試験的に使っていただくような取りかかりをしようとして現在動いているとの答弁がありました。

次に、議案第7号の主な質疑について申し上げます。

有収率について、前年度と比較して上昇したが、その要因は何か。また、有収率を高めるためにはどんな工夫があるのかとの質疑では、昨年、漏水箇所が見つかり、特に干潟エリアで日量100トン漏れていた場所があり、それらの改善により有収率が高くなったものである。

また、有収率を上げるためには漏水を減らすことや火災等による消火栓の使用が少ないこと、停滞水の解消等があるとの答弁がありました。

次に、議案第8号の主な質疑3点について申し上げます。

1点目として、流動資産の未収金について38億6,033万円余りということであるが、どう

いった内容なのかとの質疑では、未収金の中に診療報酬請求分が含まれており、かかった診療報酬を請求すると2か月後にお金が返ってくるので、請求した段階では未収金として計上していることから、その部分の未収金が大きなものとなっているとの答弁がありました。

次に、2点目として、給与費について職種ごとの人数は何人か。また、賃金の内容は何かとの質疑では、職種ごとの人数は医師125名、医療技術員240名、看護師701名、事務員99名、その他職員386名である。また、賃金については臨時職員となるが、医師105名、医療技術員27名、看護師4名、事務員2名、その他職員12名であり、医師については、当院に各種専攻科を得るためや専門医の資格を取るために勉強に来ており、就業単位が1年ということで、臨時職員の取り扱いをしている。また、技師については、当院において高度な医療ができるか、的確な判断ができないことから、臨時職員扱いとしているが、その後、本採用するものであるとの答弁がありました。

最後に、3点目として、病院事業費用の職員被服費について何社の業者が入っているのか。また、派遣職員分も含まれているのかとの質疑では、職員の制服のリースについては3社から見積もりを取ったが、人数に対応できるところが少なく、現実、対応できた業者が1社であったため、その1件と随意契約している。

また、派遣職員分も含まれており、職員と同様に貸与しているとの答弁がありました。

次に、議案第9号の主な質疑について申し上げます。

宿泊人数が417人ふえたが、休憩者が1,831人と減少した。この原因は何かとの質疑では、最近、素泊まりの方が非常に多くなっており、全体の33%が素泊まりになっている。減少については、車での休憩利用が非常に少なくなっており、その方が宿泊の方に移ったものと考えているとの答弁がありました。

以上、主な質疑及び答弁内容について申し上げますが、そのほかに質疑を尽くし慎重審査の結果、別紙報告書のとおり、9議案とも全員異議なく認定すべきものと決しました。

以上のとおり報告いたします。

平成19年9月26日、決算審査特別委員会委員長、高木武雄。

議長（嶋田茂樹） 決算審査特別委員会委員長の報告は終わりました。

議長（嶋田茂樹） 日程第2、質疑、討論、採決。

質疑、討論、採決を行います。

ただいまの委員長の報告に対し、一括して質疑に入ります。

質疑の通告はありません。質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。

討論の通告がありますので、発言を許可いたします。

神子功議員、ご登壇願います。

（24番 神子 功 登壇）

24番（神子 功） 私は、議案第1号、議案第2号、議案第4号、議案第5号、議案第8号について、賛成の立場から討論をさせていただきます。

まず初めに、議案第1号、平成18年度旭市一般会計決算について討論申し上げます。

平成18年度につきましては、旭市が合併して2年目の年に当たります。平成17年度とは異なりまして通年型の予算を組んだ年に当たるわけであります。歳入が258億1,649万3,593円、歳出は239億2,399万467円、実質収支額は8億377万2,000円となったものでございます。平成18年度の決算に当たりまして決算委員ということもありましたが、財源の確保、健全財政運営、効率的な事業運営という立場から何点が討論いたします。

財源的には、合併による効果として地方交付税5,995万円余り、国の支出金が3億7,369万円余り、県支出金が7,204万円余り、昨年度よりアップをしている状況、さらには市の財源とも言われます市税が1億5,103万6,000円、平成17年度より増加が見られました。これは、税制改革や景気の動向によるものと言われております。

そこで、とは言いましても市税の滞納につきましては年々の課題でございます。そういった点で、現在、徴収員の方によります努力、そしてまた職員による努力によりまして平成18年度も成果が見られております。市税滞納者への納付の指導ということでお尋ねいたしましたところ、催告書あるいは窓口相談、財産調査、差し押さえ予告、こういったことを行いながら結果的に夜間納税窓口については、平成17年度実績が211件あったものが平成18年度は676件、額的には1,447名、さらに休日の納税窓口については、平成17年度が83件に対して平成18年度は576件、1,482万円、こういうように税の率が上がっているわけでございます。これは、財政的な裏づけを示すことになるというふうに評価をいたします。

しかし、この市税の徴収に当たりましては、旭市行政改革アクションプラン、平成17年度から21年度までこの計画を立てて市税の徴収率アップに向けて目標を立てております。これ

を見ると、平成18年度の目標につきましては96.14%、これは現年課税分であります。しかし、決算におきましては95.9%、目標には達成できませんでした。このことについては、税につきましては、あらかじめ予算的には見込めるものを見込む。しかし、アクションプランでは目標を立てて徴収率を上げるということになっておりますけれども、そういった意味では滞納者への対応は行われておりますけれども、目標については目標で終わってはいけないというふうに判断するものでありますので、アクションプランについてはこの目標についてもう一度検討をしていただいて、この目標がいいかどうか、変えるものであればまだ平成21年までプランがありますので、そういった意味で見直しを図っていただきたいというように思います。

次に、経費の節減ということで見てみました。これは不納欠損が多いということで、これは予算的に見込んでも事情によって執行できなかったもの、さらには必要なもの等々いろいろ内容がありますけれども、その中で先ほど決算委員長からも報告がありました残業の関係につきまして触れてみたいと思います。

市では、平成18年度残業に対しては取扱い要綱を定めまして、そしてそれを周知しながら結果的に7,440万円余り削減できたということになっております。これは、経費節減と言ってもなかなかできるものではありませんが、やはり小さなことからコツコツとやるのが大切であり、そしてまた目標を掲げて飛びつけるような目標の中でそれを達成していくという心がけが大事かと思えます。そういった意味では、この経費削減という位置づけのもとに行われております今回の残業手当については、まさにその一つの表れかと思えます。全体的にはいろいろ問題がありますけれども、こういったことから健全財政あるいは効率的な運営というものを図っていただきたいというふうに改めてお願いを申し上げる次第でございます。

続いて、歳出の方を若干触れたいと思います。平成18年度につきましては、指定管理者制度を導入した年でもありました。説明書の29ページにその効果が表れておりますが、この目的につきましては、財政的にどう効率を高めるか、事業の効果があるのかどうか、そして民間に委託したことによって財政的な状況が、市としてどう効果が上がったのかどうかということが、行政効果としてはチェックできると思えますが、平成18年度につきましては、内容的に事業費はそのまま昨年度と同じような状況で実施したということですから、本来の目的には達成できなかったということがあろうかと思えます。初年度でございますので、そういった意味からすると、この民間いわゆる指定管理者の制度を導入した1年目としては、反省すべき点ではないかというふうに思うわけであります。これは、議案第20号でも今回議案に

載っておりますけれども、そういった意味からすると、この指定管理者制度に対する市の考え方についても改めて十分検討していただきたいということを、これは指摘をさせていただきたいと思います。

次に、老人保健事業の関係ですが、平成18年度につきましても議論をさせていただきましたけれども、健康教室、健康相談、そしてまたがんの検診等々事業がされておりますが、内容的に何人が受けたかどうかということはございますけれども、質問したことによってどうの方ががんにかかっているおそれがあるなということも発表していただきました。やはりその辺が予防対策としては重要なことでもありますので、数値を確認していただいて効果がどうであったかということについては、その裏づけとなる資料はそろえてあるにもかかわらず、それが反映してないということについても、これはいいことをやっっているながら市民の方々への対応ということから考えた場合には、十分発揮できてないということについては、ぜひこれから平成19年、20年度事業を行ってきて予防対策ができたという評価についても十分反映していただきたいと思います。

適応指導教室指導員配置事業であります。これについては平成18年度中に不登校のお子さんたちが6名復帰できたということで説明がありました。担当者の方々についてのご労苦に対して改めて厚く御礼申し上げます。

やはり、こういったきめ細かい対応というものが行政に望まれていることと思います。これは、評価をさせていただきたいと思います。

以上、何点かご指摘申し上げ、そしてまた評価をいたしました。平成18年度一般会計につきましても、全体的に財源の面では国や県の交付金等々効果はありましたけれども、不用額が残ったということについては今後十分内容的に分析をいたしまして、健全財政に向けてぜひ頑張ってくださいということをお願い申し上げまして、議案第1号については賛成の討論といたします。

続いて、議案第2号、平成18年度旭市国民健康保険事業特別会計決算の認定についてでございます。これも1号議案で申し上げましたように、毎年なのですが、一般会計と同様に税の滞納者、こういったことが毎年増加の傾向にあります。不納欠損、収入未済額、これの増加にあるということは大変対応としては難しい面もありますけれども、国保会計の健全化、こういったことに向けてぜひ厳しい対応も必要でありますし、納得できるような説明もご理解も必要かと思っております。どうか日々大変でございますが、健全化に向けてのご努力をお願いして議案第2号は終わります。

議案第4号につきましては、平成18年度旭市介護保険事業特別会計決算の認定についてであります。お年寄りの方々が、やはり滞納し不納欠損、収入未済額、これは不納欠損は2年で処理をされますけれども、制度上ニーズが高まっていることはご案内のとおりでございます。この制度につきまして、不納欠損、収入未済額が増える中、大変でございますが、ニーズが高まっているということ踏まえまして滞納がなくなるような対応も考えていただき、この事業を円滑に進めていただくことを要望いたします。

議案第5号、平成18年度旭市下水道事業特別会計決算の認定についてでございます。2点申し上げます。

一つは、先ほども委員長の報告がありましたように、運転業務の関係でございます。これについては旧旭市からの懸案事項でありましたけれども、要は市の職員でできないかと議論をさせていただきました。しかし、この予算については、年々同じような予算額が組み込まれ数年来たわけでありまして、平成18年度につきましては、当初予算6,200万円余りに対しまして決算は4,725万円、これは入札によるものということでございましたけれども、実際に運転管理をするのは大手企業であって、内容的には変わらなく運転業務ができる、こういったことも担当課長からご説明をいただきました。ここで削減ができましたが、ぜひこの管理委託につきましては、業務が滞りなくしかも間違いがなく運用できますようにご配慮をお願いしたいと思います。

2点目は、毎年のように面整備を行ってきます。面整備を行った年については効果は表れません。要は、次年度以降に水洗化率アップのためにご努力をしていただいてつなぎ込みができるということになっております。そういった意味では、面整備を行っている年度は種まき期間として、いわゆる営業活動と言いますか、そういったことを十分に行っていないと次年度には効果が表れません。そういった意味で、さらなる効果が発揮できますようにご努力をお願いしたいと思います。

次に、議案第8号、平成18年度旭市病院事業会計決算の認定についてであります。多くは申し上げますが、平成18年度につきましては、当期利益が3億236万5,000円、これまで推移を見てきた場合には10億円以上の利益を上げてきた、これが平成18年度には1けた億台の額になったということです。内容的には、材料費等の削減がこの大きな要因として挙げられるということでもありますけれども、平成18年度につきましては、人材派遣会社への問題が議会でも議論されました。職員の移行という問題であります。3,500万円を付して人材派遣に職員を移行した、こういう問題があった年でもありました。さらに、業務委託と言いますか

委託費が増加傾向にあります。そういった意味では、この病院事業を全体的にもう一度効率を高める議論が必要かと思えます。平成18年のように当期利益が3億円台、こういったことでは次年度、さらにはその年、次の年、新整備計画もされておりますけれども、行き詰まるような状況ではないかということを考え、十分に経営につきましても配慮いただきたいということをご指摘申し上げます。

以上で、簡単でございますけれども討論にかえさせていただきます。

議長（嶋田茂樹） 以上で通告による討論は終わりました。

討論を終わります。

これより議案第1号から議案第9号までの9議案について採決いたします。

議案第1号、平成18年度旭市一般会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（嶋田茂樹） 全員賛成。

よって、議案第1号は認定することに決しました。

議案第2号、平成18年度旭市国民健康保険事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（嶋田茂樹） 全員賛成。

よって、議案第2号は認定することに決しました。

議案第3号、平成18年度旭市老人保健特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（嶋田茂樹） 全員賛成。

よって、議案第3号は認定することに決しました。

議案第4号、平成18年度旭市介護保険事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（嶋田茂樹） 全員賛成。

よって、議案第4号は認定することに決しました。

議案第5号、平成18年度旭市下水道事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第5号は認定することに決しました。

議案第6号、平成18年度旭市農業集落排水事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第6号は認定することに決しました。

議案第7号、平成18年度旭市水道事業会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第7号は認定することに決しました。

議案第8号、平成18年度旭市病院事業会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第8号は認定することに決しました。

議案第9号、平成18年度旭市国民宿舎事業会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第9号は認定することに決しました。

ここで、11時5分まで休憩いたします。

休憩 午前10時51分

再開 午前11時4分

議長(嶋田茂樹) 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第3 常任委員長報告

議長（嶋田茂樹） 日程第3、常任委員長報告。

これより各常任委員会に付託いたしました議案審査の経過と結果について、各委員長の報告を求めます。

初めに、公営企業常任委員会委員長の報告を求めます。

委員長、高橋利彦議員、ご登壇願います。

（公営企業常任委員長 高橋利彦 登壇）

公営企業常任委員長（高橋利彦） 公営企業常任委員会委員長の報告を申し上げます。

去る9月6日の本会議において、当委員会に付託されました議案第11号、平成19年度旭市病院事業会計補正予算の議決について、議案第12号、平成19年度旭市国民宿舎事業会計補正予算の議決について、議案第17号、旭市国民宿舎事業の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についての3議案について、審査経過並びに結果を申し上げます。

去る9月18日午前10時より、議会委員会室において議案説明のため執行部より副市長、病院事業管理者ほか関係課長の出席を求め、本委員会を開催いたしました。

また、議案第11号については、9月18日において審査が終わらなかったため9月21日午後1時30分より、執行部より副市長、病院事業管理者ほか関係課長の出席を求め引き続き審査を行いました。

それでは、審査内容について質疑とその答弁の内容を申し上げます。

初めに、議案第12号の主な質疑について申し上げます。

3条予算の臨時職員の賃金476万円余りの内容はとの質疑では、新しい業務システムをやっている中で、レストランサービスに3名から5名の専門的な職員を配置するためのものである。

また、手当については、1日8時間で8,000円程度を見ているが、今までにないサービスを行うことから若干レベルを上げた形で採用していきたいと考えているとの答弁がありました。

次に、議案第17号の主な質疑について申し上げます。

名称変更について全国公募した結果、333名の応募であったが、少なかった理由は何かと

の質疑では、現在ホームページを開設して非常にアクセス数が増えており、これを見た方は非常に多かったと判断している。また、宿泊客に対してもお願いをしており、応募の状況を見ると、北海道から福岡まで含まれて非常に効果はあったかと思うが、もう少しメディア等を使い1人でも多くの方に知っていただくことが基本であるので、今後頑張っていきたいとの答弁がありました。

次に、議案第11号の主な質疑10点について申し上げます。

1点目として、再整備事業について資金計画や収支計画が試算どおりにいくのか、また、交付税措置が今の水準を維持できるのかとの質疑では、収支の見通しについては、診療報酬が2.5%ずつアップしていく前提というものもあるが、今回、財団法人日本経済研究所にDPCによる増収効果と7対1看護基準による増収効果について検証を行い、現在はこの収支見通しを軸に考えている。

また、交付税については、不採算が見込まれるものについて、国は交付税という財源措置をしているが、交付税の担う役割や財源の調整機能と財源の保障であり、三位一体の改革の中でいろいろと議論されているが、財源の保障機能であることから少なくとも公立の基幹病院に対しては、なくなることはないだろうと考えているとの答弁がありました。

次に、2点目として、実施計画が通ったならば再整備事業はすべてゴーとなるのかとの質疑では、病院側の認識とすれば一連の流れで動いているという認識があり、実施設計が承認されればより具体的に目標に向かって、さらに一歩歩みを進めたという認識であるとの答弁がありました。

次に、3点目として、3億1,395万円の実施設計の内訳は何かとの質疑では、国で公表している算式に沿って計算をしているが、大きく分けて直接人件費と間接諸経費及び技術料である。直接人件費については、主に建築意匠で調査業務、実施CAD作図や詳細設計の検討、積算業務等である。また、間接諸経費については、直接人件費の1.0倍が標準であるが、それを0.5で計算し、技術料についても直接人件費の0.5の標準を0.25で計算しているとの答弁がありました。

次に、4点目として、平成15年から16年にかけて提案型の公募で基本計画を始めたが、どのように公募したのかとの質疑では、病院建築に精通している業者7社に集まっていただきプレゼンテーションを実施した。評価した要素については、主に実績、経験及び能力等であるが、次に創造性ということで現在の土地にどのような形で効果的に配置できるか、進入路、駐車場等の安全、効率性を考えた配置やデザイン、周辺環境との調和があるか。また、技術

力、耐久性と費用面での経済性、自然採光や利用者に対しての配慮がなされている施設であるか、有事の際の避難誘導、動線が効率的であるかなど総合的にプレゼンテーションをして、その中で3社を選考し、さらに細かい部分のヒヤリング等を実施し、実現性もしくは病院に対して熱意を持っているかを含めて評価し選定したものであるとの答弁がありました。

次に、5点目として、317億円のうち200億円の借金をするわけであるが、市との協議をしたのか。また、市はどう考えているのかとの質疑では、昨年より資金や起債等について情報交換を行って、収支のシミュレーションあるいは政策投資銀行も見ているなど、この計画は成立可能ではないかと考えている。地域の基幹病院として一刻も早く地震等に対応するような形で、また医師不足にならない整備をしていくことは大事だと思うので、計画の中で実行できればと考えているとの答弁がありました。

次に、6点目として、減価償却費を建設の3分の1に充てるというが、このお金はどこにあるのか。また、人口が減っていく中で、今の100万医療圏という数字は違ってくる、DPCとか7対1看護とかあるが、DPCについては2010年にはなくなり、7対1看護においても看護師の確保があり、これでなぜ大丈夫なのかとの質疑では、減価償却費については帳簿上の支出で実際は現金として残っており、平成18年度末で62億円の現金がある。また、人口減少については確かに減少の方向に向かっているが、65歳以上のいわゆる病気を起こす人口というのは、団塊の世代の寿命が25年くらいあることから余り変わらないだろうと考えている。DPC等については、国の制度や診療報酬という大きな枠組みの中で行っており、改革はこれまでに何度も行われ、その都度対応してきた。医療保険の制度が国の方針によって変化するわけであるが、その都度対応していかなければならないものであり、将来、20年、30年を見越す場合に、現時点での一番最悪なシナリオとして示しているとの答弁がありました。

次に、7点目として、実施計画が可決されたら市民に説明をするとのことであるが、どんな形で説明を行い、また市民からの意見をどうするのかとの質疑では、市の広報や院内の掲示、また当院のホームページでお知らせしたいと考えており、意見も書き込めるようなことも検討したいと考えているが、基本的なことは固まってしまうので、その中で可能なものについて取り入れるようなことで考えているとの答弁がありました。

次に、8点目として、再整備という大きな事業の中で、今後、起債が難しくなり、市として必要な投資事業をどう進めていくのか。また、県では施設整備事業費20億円以上については、事前評価の対象として事業着手の妥当性を検証しているが、市としてこの再整備の進め方にどのような感想を持っているのかとの質疑では、実質公債比率が上がる現象はあるが、

その公債費についても、交付税措置があるものをできるだけ活用し、必要な事業を必要最小限の一般財源の持ち出しで済むような工夫をしながら、また病院の関係では補助金等もできるだけ県からお願いしたいと考えている。事前評価制度については、県と同じような制度を市は持っていないが、その事業の効率性といった要素が見合うような内容の検討も、病院内部では当然含まれているものと思っている。将来の財政負担がどのようになるかということをも十分試算し、関係機関と起債等の扱いについて協議を行い、ピークの21.1%という実質公債比率を十分配慮しながら市の経営が危うくならないように考えているとの答弁がありました。

次に、9点目として、建設に対する補助制度はないのかとの質疑では、国と県に補助制度はあったが、国は平成18年度からなくなり県のみにも制度がある。内容については、今ある機能は基本的に補助してもらっているので、制度の中に特別に知事が認めた場合という項目があり、その中で地域の貢献性等を勘案して、特別に認められるように話をしているとの答弁がありました。

最後に、10点目として、計画の中で医業収支が平成18年度と20年後の37年度において、1.5倍くらいの伸びに対して損益が約7倍の21億円となっているが、なぜこんなになるのかとの質疑では、2.5%の伸びを見込んでいるわけであるが、古い施設の中に相当維持管理費がかかっているものもあり、再整備によって全くなくなるものではないが、相当少なくなっていくということで、できる限りのものを見込んで算出した結果であるとの答弁がありました。

以上、主な質疑及び答弁内容について申し上げましたが、そのほか質疑を尽くし慎重審査の結果、別紙報告書のとおり3議案とも全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上のとおり報告いたします。

平成19年9月26日、公営企業常任委員会委員長、高橋利彦。

議長（嶋田茂樹） 公営企業常任委員会委員長の報告は終わりました。

続いて、建設経済常任委員会委員長の報告を求めます。

委員長、向後和夫議員、ご登壇願います。

（建設経済常任委員長 向後和夫 登壇）

建設経済常任委員長（向後和夫） 建設経済常任委員会委員長の報告を申し上げます。

去る9月6日の本会議において、本委員会に付託されました議案第10号、平成19年度旭市

一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第15号、旭市中小企業資金融資条例の一部を改正する条例の制定について、議案第18号、旭市土地開発公社定款の変更についての3議案について、審査経過並びに結果を申し上げます。

去る9月19日、午前10時より議会委員会室において、議案説明のため執行部より副市長ほか関係課長の出席を求め本委員会を開催いたしました。

それでは、審査内容について、質疑とその答弁の内容を申し上げます。

初めに、議案第10号の主な質疑3点について申し上げます。

1点目として、中央病院のアクセス道路について地元と話し合いがつかないときはどうするのか。また、坪当たりの単価と総事業費は幾らかとの質疑では、現在の状況は65%から70%くらいまではおおむね了承している。厳しい方は5%あるが誠意を持って対応したい。また、総事業費については、飯岡バイパスを真っすぐ抜けて川島歯科、中央病院のヘリポートまでと網戸から江ヶ崎を抜けて総堀り線から大規模農道までと全部合わせて20数億円である。単価については、現況が田んぼであっても宅地見込み地として取り扱うので、平米1万8,000円前後であるとの答弁がありました。

次に、2点目として、商工費の中小企業金融対策事業について、融資が増加したとのことであるが、どんな業種が融資を受けようとしているのかとの質疑では、現在、融資済件数が265件あり、合併後については63件ある。最近の傾向としては建築業、運送業などが多くなっている。今後の見込みとしては、10件程度見込んでいるとの答弁がありました。

最後に、3点目として、道路の業務委託について地元業者の育成をどう考えているのかとの質疑では、道路の詳細設計や測量業務については、できるだけ細かく分離分割をしているが、合併後の2年間の推移ということで、建設だけでなくその他の部分についても調査を行い、また入札制度の公平性や競争性といった中で、どういう形が地元還元に貢献できるのかという面も踏まえて考えていきたいとの答弁がありました。

次に、議案第15号の主な質疑について申し上げます。

損失の補償について過去に事例はあったのかとの質疑では、代位弁済の状況ですが、5件あり金額は1,779万6,951円である。その中で、市の損失補償金額は248万5,482円であり、多少の回収金もあり現在の損失補償残高は181万7,272円であるとの答弁がありました。

以上、主な質疑及び答弁内容について申し上げましたが、そのほか質疑を尽くし慎重審査の結果、別紙報告書のとおり3議案とも全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上のとおり報告いたします。

平成19年9月26日、建設経済常任委員長、向後和夫。

議長（嶋田茂樹） 建設経済常任委員会委員長の報告は終わりました。

続いて、文教福祉常任委員会委員長の報告を求めます。

委員長、林一雄議員、ご登壇願います。

（文教福祉常任委員長 林 一雄 登壇）

文教福祉常任委員長（林 一雄） 文教福祉常任委員会委員長の報告を申し上げます。

去る9月6日の本会議において、本委員会に付託されました議案第10号、平成19年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第20号、指定管理者の指定についての2議案について審査経過並びに結果を申し上げます。

去る9月20日午前10時より議会委員会室において議案説明のため執行部より教育長ほか関係課長の出席を求め本委員会を開催いたしました。

それでは、審査内容について質疑とその答弁の内容を申し上げます。

初めに、議案第10号の主な質疑の2点について申し上げます。

1点目として、小学校大規模改造事業において設計変更となった理由は何かとの質疑では、耐震補強ということで、共和小と豊畑小の屋内運動場の工事にあたり、壁に穴があいて補強しても使い勝手が悪いもの、外壁にひびが入っているものなどが見つかри、また、両校とも照明器具において電球等の取りかえに結構な経費が必要となることから、管理のしやすい昇降式に変えたためであるとの答弁がありました。

次に、2点目に、中学校施設の管理費の施設維持管理委託料については、毎年委託するのか。また、入札方法はとの質疑では、海上中学校の芝生の養生ということで管理委託するものであり、校舎側の部分、約1万平米をお願いするもので、機械が入れないことや生えていないところもあることから、1年や2年は委託をしていく計画であるが、その後はPTAや生徒等に管理をお願いしていく予定である。また、入札方法については、市の財務規則にのっとり業者を決定していきたいと考えているとの答弁がありました。

次に、議案第20号の主な質疑3点について申し上げます。

1点目として、なぜ指定管理にするのか。また、保護者への説明はできているのかとの質疑では、厳しい財政状況の中で行政コストをいかに抑えながら効率的な行政運営を展開していく流れの中で、民間にできることは極力民間にということもあるが、すべてカバーできるものではなく、保育サービスを今以上に展開できる方法として、指定管理者による民間委託

であると考えており、今後は今回の民間委託を十分見きわめた中で決定していきたい。また、保護者への説明については、当初、指定管理は平成19年から実施する予定であったが、保護者の理解を得るため1年間、実施を延ばし説明会を何度か開催し、また、アンケートでは休日保育の実施の要望が多く寄せられ、そうした特別保育や延長保育という部分で決してサービスの質を落とさないで今のサービスを維持しながら保護者の意向に対応できるように、保育内容も検討した中で指定管理者による理解をいただいているとの答弁がありました。

次に、2点目として、公募期間について短かったのではないかと。また、1社の応募しなかった理由は何かとの質疑では、平成19年度から既に指定管理者になるようなことで、公募する前から問い合わせ等があり、また、市内の幼稚園や民間でやられている代表の方にも直接会って説明を行い、実際、県外の事業所を含めて、7事業所から問い合わせはあったが、結果、1法人の応募となった。

応募しなかった理由については、仕様書の中に既に保育所運営をしている条件があることや、保育園を経営している方には、この制度に関心はあっても運営するまではいかないような状況であるとの答弁がありました。

最後に、3点目として、園児の事故等の賠償についてはどうなっているかとの質疑では、事故の賠償責任については、協定書の中で明確にできるような内容で結んでいきたいと考えているとの答弁がありました。

以上、主な質疑及び答弁内容について申し上げますが、そのほか質疑を尽くし慎重審査の結果、別紙報告書のとおり2議案とも全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上のとおり報告いたします。

平成19年9月26日、文教福祉常任委員会委員長、林一雄。

議長（嶋田茂樹） 文教福祉常任委員会委員長の報告は終わりました。

続いて、総務常任委員会委員長の報告を求めます。

委員長、平野浩議員、ご登壇願います。

（総務常任委員長 平野 浩 登壇）

総務常任委員長（平野 浩） 総務常任委員会委員長の報告を申し上げます。

去る9月6日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案第10号、平成19年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第13号、政治倫理の確立のための旭市長の資産等の公開に関する条例の一部を改正する条例の制定につい

て、議案第14号、旭市使用料及び手数料に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第16号、旭市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第19号、財産の取得について、議案第21号、市の区域内の字の区域及び名称の変更について、議案第22号、市の区域内の字の区域及び名称の変更についての7議案について、審査経過並びに結果を申し上げます。

去る9月21日午前10時より議会委員会室において議案説明のため執行部より副市長ほか関係課長の出席を求め本委員会を開催いたしました。

それでは、審査内容について、質疑とその答弁の内容を申し上げます。

初めに、議案第10号の主な質疑3点について申し上げます。

1点目として、消防施設整備事業の起債については、実質公債費比率18%を超えた初めての起債であり、協議から許可となった手続はどうなっているのか。また、市の起債残高480億円に対して実質公債費比率が18%を超えているわけであるが、病院の200億円を上乗せしたとき2%程度の上昇でよいのかとの質疑では、起債の手続については、今までと同様に申請して、問題なく許可を得ている。

また、病院の再整備事業における209億円の起債に対する実質公債費比率については、財政投融资と銀行からの借り入れを行う予定であるが、財政投融资については30年間、銀行の借り入れについては15年間で償還する計画となっており、2%程度増える前提というのは、財政投融资と銀行の借り入れを50対50で試算していることから、実質的にはそれよりも影響は少なくなると考えているとの答弁がありました。

次に、2点目として、電算システム運用事業の電算業務委託料について、なぜ当初から見込めなかったのかとの質疑では、これは、後期高齢者の医療システムであり、新年度当初予算を組む段階では、国から詳細な内容が示されていなかったためであるとの答弁がありました。

最後に、3点目として、防災行政無線統合整備事業において個別受信機は無料で配布するのか。また、1基当たり幾らかとの質疑では、個別受信機は市の備品として購入することで、まちづくり交付金の対象事業となり、その後、市民に無償で貸与することを考えている。また、個別受信機1基当たり5万5,000円から6万円程度であるとの答弁がありました。

次に、議案第13号についての主な質疑について申し上げます。

資産等の公開について、今までに閲覧請求は何件あったかとの質疑では、マスコミ関係のみで年間5件程度の請求があるとの答弁がありました。

次に、議案第16号についての主な質疑について申し上げます。

市営住宅の入居率と応募状況はどうなっているのか。また、市の人口を増やすためには住宅を増やすことも必要と思うが、住宅政策をどう考えているかとの質疑では、平成19年9月1日現在の入居率は、政策空き家27戸を含めた425戸に対して入居が384戸で、入居率は90.5%である。応募状況については、平成18年度が11戸の募集に対し45戸の応募があり、率は4.1倍、また、平成19年度は10戸の募集に対して28戸の応募があり、率は2.8倍である。住宅政策については、生活保護や極めて所得の少ない方のためにできるだけ最低限のものを確保し、本当に必要な方に住んでもらうことを考えているので状況を見ながら考えていきたいとの答弁がありました。

以上、主な質疑及び答弁内容について申し上げましたが、そのほか質疑を尽くし慎重審査の結果、別紙報告書のとおり7議案とも全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上のとおり報告いたします。

平成19年9月26日、総務常任委員会委員長、平野浩。

議長（嶋田茂樹） 総務常任委員会委員長の報告は終わりました。

以上で付託議案に対する各常任委員会委員長の報告は終わりました。

日程第4 質疑、討論、採決

議長（嶋田茂樹） 日程第4、質疑、討論、採決。

質疑、討論、採決を行います。

ただいまの各委員長の報告に対し、一括して質疑に入ります。

質疑の通告はありません。質疑なしと認めます。

これより一括して討論に入ります。

討論の通告がありますので、発言を許可いたします。

神子功議員、ご登壇願います。

（24番 神子 功 登壇）

24番（神子 功） 私は、議案第11号、議案第12号、議案第20号につきまして、賛成の立場から討論をさせていただきます。

まず、議案第11号、平成19年度旭市病院事業会計補正予算の議決についてでございます。今、常任委員長の方から議論の経過が行われました。この件については、再整備事業の実施計画ということで質疑でも議論をさせていただいた経過がございます。私の議論の内容というのは、今回、実施計画が出た経過というのは、どういうことであったのかどうか。要は箱物が必要だから建てたのか、それとも医療技術の進歩に伴って患者の皆さんがそれを受けるのに必要だったから建てたのか。さらに、老朽化しているためにその問題点を解決するためにどうしたらいいのかどうかというこの3点についての議論をしながら、そして今回の計画に載ったのかどうか、こういった点について質疑をさせていただいたわけでございます。

その中で、病院事務部長はこういうようにお答えいただいております。私の内容が今そういうことでお伺いいたしました。要は、問題点がどういったことがあったのかどうか、それは改善することによってどういったメリットが出てくるのかどうか、要は入り口の部分で議論しておかなければ間違ったことになるという前提のもとでございました。病院事務部長の答弁の中に、今回の実施設計は基本的な基本計画に基づいてそれを設計に落とすという作業である。例えば、手術の部屋が今12しかないものが15になる。こういった具体的な基本設計のことについてはこれから進めていくものである。したがって、実施設計でさらに詳細にしていくものであるということで、病院の再整備をするという問題とは少し切り離してほしいという私の質疑に対して、切り離しの内容の話がありました。

しかし、どうでしょうか。要は問題点とか、これから医療技術の進歩とか、それから旭中央病院をどうしていくのかということの基本的なことがなければ、要は実施設計までいくには問題点を解決することにはならないと思います。要は、今回、耐震診断をするということについては、これはつくってもお金を生むことはありません。医療技術の進歩によって、それを現在の老朽化している設備あるいは施設について、そこにできないからやることによってきっとメリットは生じるでしょう、幾らかはわかりません。患者が増えていくことによって設備を導入し、現在例えば1日60人しか対応できなかったものが医療設備を入れることによって、効率化が伴うことによって1日それが2倍に増えるのか、1.5倍に増えるのか、そういったことがあるために新しく設備があったときに一緒にやりましょう、これはいいのではないかというふうに考えた場合には、このいわゆる基本的な基本計画、それに基づく設計、実施設計というものは切り離しはできないというふうに私は思います。

そういったことで、今回の補正につきましては、これから計画をしておりますいわゆる箱物、316億円余りかかりますけれども、そこに結果的には現在の問題となる設備も入ると思

います。それから、動線が今現在、困っている状況も集約するからそれは解決するでしょう。しかし、もう一方ではその経営をどうするかということについては、本会議でもいろいろ議論がありましたけれども、その課題も残ります。要は箱物だけ建てれば良いという問題ではないというふうに思う一人でございます。そういった意味で、今回、実施設計はありますけれども、私は建てることには賛成です。しかし、入り口の部分で議論をされているとすれば、本会議あるいは委員会でもその議論した内容を議員に示すべきではないか、そこが入り口の部分で足らなかったのではないかとすることを私は指摘をしたいのであります。したがって、必要な内容については何であったかどうかということ、建物を建てるということ以前にあったはずでございますので、そういったことを現在やられているとすれば、それをもう少しわかりやすく適宜適切に話をいただくということをお願いしたい。そして、設計が今、委員長の報告にありましたように、将来的に資金の調達とか、それから起債の云々、それから交付税の云々ということについては、これはこれからのことありますから、それを十分に考えられるようなことについては、市当局とそれで全適用を適応している病院との話し合いによって、それが十分に確保できるように今から進めてもらいたいということをお願いしておきたいと思っております。

したがって、もう一度申し上げます。将来を見越して今回建てるものについては、現在問題点がどういうことであったのかどうか、耐震診断はもともと問題点がありましたのでこれはいいとしましょう、しかしお金はかかります。そのために財源をどうするかということが今出ておりますので、よく整理をして、これからぜひ進んでいただきたいことを要望いたします。議案第11号については終わります。

次に、議案第12号、平成19年度旭市国民宿舎事業会計補正予算の議決についてでございます。結論的には、食彩の宿いおかをこれから構築していく、名前を募集した、名前が決まった、さあ平成19年度が終わって平成20年度からスタートしましょう。こういうような状況の中での補正でございます。臨時職員の予算、ボイラーの修繕等々ありますが、ここで問題なのは、やはり食彩だけを掲げて今後、将来に向かっていくとすれば、どういう問題が起きるかということについては、本当に検討しているのでしょうか。私は、施設をよくすることは賛成であります。しかし、建設経済常任委員会で最近いろいろなところに食に行っただけです。そうしますと、1,000円程度で食べられてしかも家庭の味がそこで満喫できる。そういったことが飯岡荘であった方がいいのか、それとも一風変わった旭市の食材を使ってそれを食べてもらったことの効果があるのかどうか、さらに今まで宿泊施設とし

てこれまで培ってきた部屋数が減るということについて、どれだけ危機感を持って対応するのかどうかということは課題に上ってくると思います。

そういったことを考えると、ただ単に臨時職員の予算を組む、それから現在の老朽化している施設を建てかえるあるいは修繕する、そしてきれいにすればいいという、そういった問題ではなくて根本的にレストランを設置したことにはどのようなことが必要か、宿泊施設として欠けていることになるのであれば、それをどうしたらいいのかどうかということは、専門的な方の意見も必要ですけれども、旭市として施設をどう運営するかということについては、運営委員会に任せることではなくて基本的に庁内で議論して、それを反映することが必要ではないかということで、これは指摘でございますけれども、しかし、方向づけが出ておりますので、それについては私はやぶさかではありません、賛成いたしますけれども、その点、十分配慮していただいて次年度を迎えるように検討をよろしくお願いいたします。

最後に、議案第20号、指定管理者の指定についてで、この件につきましてもご質疑申し上げますし、先ほども決算の中で議論させていただきました。平成18年度に指定管理者制度を導入いたしましたけれども、結果的には事業費は例年と同じように措置をした。結果的に今、委員長の方からも話がありましたように、内容的には財政の効果とかいわゆる効率化ということは果たしてどうであったかというのが、平成18年度の、先ほど指摘したとおりでございます。平成19年度は、ご努力によりましてようやく民間らしい民間の委託ができる。こういう運びになったわけではありますが、質疑でも申し上げますように、指定管理者制度につきましてもは多様化する住民ニーズによりまして、効果的かつ効率的に対応するための公の施設の管理を民間の能力を活用して、住民サービスの向上を図っていく。したがって、経費削減等を図るのが目的だということが基本的な内容でございます。

そこで、今回、幼稚園ということをお願いするわけですが、本会議で質疑をさせていただきましたけれども、8,900万円という価格が出ました。これは、100万円単位から1,000万円単位までの間で削減できるでしょう。この方向づけもいただきましたので、それは削減ができるという判断ですから、いいと思います。しかし、その過程においてどんな議論がされたかどうかというのが、今後指定管理者制度をさらに導入していくためには、考えなければならない点だというふうに私は思います。平成18年12月に市長とも議論させていただきました。要は、どういったねらいをするのか、コスト削減のためには現在、例えば今回の指定管理者制度を導入するその保育所ということターゲットにします。それが現在どういう運営をしているか、幾らかかっているか、どういった問題があるか、これについて民間委託した場合に

は、どういうコストの削減ができるのかどうか、そしてどういう効果がねらえるのかどうかということで、それをどこの民間に何を民間にどういう効果をねらっているのだということ根底に置いて、選択肢を求めて、それで財政の健全のためにそれを推しはかっていくような状態を十分に把握して、その把握するのは市の職員あるいは外部の方でも結構です。そして、住民サービスになるような現在のニーズに応えられることも含めてそれに反映していく。それが円滑になるようなことであれば、ではやっていきましょうという結論を出すことだと私は思います。

そういった意味では、確かに価格的には今下がるということで確認をいたしておりますので、どれだけ下がるかということは別にいたしましても、そういう今後進めていくためには、場合によってはプロジェクトチームをつくって民間へ委託するためには、どういう基準であってほしいという、そういったことをつくることも大事でしょう。歳入としては最大に、歳出は最小に、こういった効果ができるような制度をぜひつくっていただきたいというのが今回、要望する内容ですが、初めての保育所では、第1号となる指定管理者制度でございます。これを成功させなければ次はありません。したがって、今申し上げたことについて、これから契約を結ぶでしょう。ぜひそのことを念頭に置いていただいて、次に発展できるように要望いたしまして、賛成討論を終わります。

議長（嶋田茂樹） 以上で通告による討論は終わりました。

討論を終わります。

これより議案第10号から議案第22号までの13議案について採決いたします。

議案第10号、平成19年度旭市一般会計補正予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（嶋田茂樹） 全員賛成。

よって、議案第10号は原案のとおり可決されました。

議案第11号、平成19年度旭市病院事業会計補正予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（嶋田茂樹） 賛成多数。

よって、議案第11号は原案のとおり可決されました。

議案第12号、平成19年度旭市国民宿舎事業会計補正予算の議決について、賛成の方の起立

を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第12号は原案のとおり可決されました。

議案第13号、政治倫理の確立のための旭市長の資産等の公開に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第13号は原案のとおり可決されました。

議案第14号、旭市使用料及び手数料に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第14号は原案のとおり可決されました。

議案第15号、旭市中小企業資金融資条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第15号は原案のとおり可決されました。

議案第16号、旭市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第16号は原案のとおり可決されました。

議案第17号、旭市国民宿舎事業の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第17号は原案のとおり可決されました。

議案第18号、旭市土地開発公社定款の変更について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第18号は原案のとおり可決されました。

議案第19号、財産の取得について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第19号は原案のとおり可決されました。

議案第20号、指定管理者の指定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第20号は原案のとおり可決されました。

議案第21号、市の区域内の字の区域及び名称の変更について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第21号は原案のとおり可決されました。

議案第22号、市の区域内の字の区域及び名称の変更について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、議案第22号は原案のとおり可決されました。

日程第5 常任委員長陳情報告

議長(嶋田茂樹) 日程第5、常任委員長陳情報告。

これより各常任委員会に付託いたしました陳情審査の経過と結果について、各委員長の報告を求めます。

初めに、建設経済常任委員会委員長、向後和夫議員、ご登壇願います。

(建設経済常任委員長 向後和夫 登壇)

建設経済常任委員長(向後和夫) 建設経済常任委員会委員長の陳情報告を申し上げます。

去る9月6日の本会議において付託されました陳情第3号、稲作農家に勤労者並みの労賃

と再生産を確保するため「2万円米価」を保障する制度確立を求める陳情についての1件について、審査経過並びに結果を申し上げます。

陳情審査は、9月19日、付託議案の審査終了後、担当課より本陳情の内容について詳しく説明を受け、直ちに審査を行いました。

審査では、陳情の趣旨に労働者が求める最低賃金を日給8,000円としているが、千葉県の最低賃金保障は687円であり、一般労働者との最低賃金との位置づけと米消費の構造的な状況等を踏まえてさらに検討したいとの意見が出され、結果、別紙報告書のとおり全員賛成で閉会中の継続審査と決しました。

以上のとおり報告いたします。

平成19年9月26日、建設経済常任委員会委員長、向後和夫。

議長（嶋田茂樹） 建設経済常任委員会委員長の報告は終わりました。

続いて、文教福祉常任委員会委員長、林一雄議員、ご登壇願います。

（文教福祉常任委員長 林 一雄 登壇）

文教福祉常任委員長（林 一雄） 文教福祉常任委員会委員長の陳情報告を申し上げます。

去る9月6日の本会議において付託されました陳情第2号、後期高齢者医療制度を抜本的に見直すよう国への意見書採択を求める陳情についての陳情1件について、審査経過並びに結果を申し上げます。

陳情審査は、9月20日、付託議案の審査終了後、担当課より本陳情の内容について詳しく説明を受け、直ちに審査を行いました。

審査では、今回の改革は、経費等の面において効率的であるところから、市町村単位から県単位に広げたものであり、保険料の年平均7万5,000円とあるが、その積算根拠は、老人にかかわる年間医療給付費の1割を被保険者数1,300万人で割り戻したもので、実際に賦課する際には、所得がある方は所得割で、ない方については均等割で最大7割軽減の措置があるとのことで、陳情の趣旨にあるような一律月額1万円以上の負担とはならないとの意見が出され、結果、別紙報告書のとおり、陳情第2号については全員賛成で不採択と決しました。

以上のとおり報告いたします。

平成19年9月26日、文教福祉常任委員会委員長、林一雄。

議長（嶋田茂樹） 文教福祉常任委員会委員長の報告は終わりました。

以上で、付託陳情に対する各常任委員会委員長の報告は終わりました。

日程第6 質疑、討論、採決

議長（嶋田茂樹） 日程第6、質疑、討論、採決。

質疑、討論、採決を行います。

ただいまの各委員長の報告に対し、一括して質疑に入ります。

質疑の通告はありません。質疑なしと認めます。

これより一括して討論に入ります。

討論の通告はありません。討論なしと認めます。

これより陳情第2号、陳情第3号の2件について採決いたします。

陳情第2号、後期高齢者医療制度を抜本的に見直すよう国への意見書採択を求める陳情について、文教福祉常任委員会委員長の報告のとおり不採択と決するに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（嶋田茂樹） 全員賛成。

よって、陳情第2号は不採択と決しました。

陳情第3号、稲作農家に勤労者並みの労賃と再生産を確保するため「2万円米価」を保障する制度確立を求める陳情について、建設経済常任委員会委員長の報告のとおり閉会中の継続審査と決するに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（嶋田茂樹） 全員賛成。

よって、陳情第3号は閉会中の継続審査と決しました。

昼食のため1時10分まで休憩いたします。

休憩 午後 零時 3分

再開 午後 1時 9分

議長（嶋田茂樹） 休憩前に引き続き会議を開きます。

本日、市長より追加議案の送付があり、これを受理いたしました。

追加のありました議案は、議案第24号、和解及び損害賠償の額を定めることについての1議案であります。

また、本日発議案が提出されました。提出されました発議案は発議第1号、旭市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について、発議第2号、旭市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定についての2発議案であります。

配布漏れはありませんか。

(「なし」の声あり)

議長(嶋田茂樹) 配布漏れないものと認めます。

ただいま追加議案並びに発議案に伴う日程の追加について、議会運営委員会を開催していただきました。その結果につきまして、神子委員長よりご報告をお願いしたいと思います。

神子委員長、ご登壇願います。

(議会運営委員長 神子 功 登壇)

議会運営委員長(神子 功) ただいま議会運営委員会を開きまして、追加議案の提出に伴う日程の変更について協議をいたしましたので、その内容について私の方よりご報告申し上げます。

追加議案は、市長より提案のありました議案第24号の1議案と本日、提出のありました発議第1号、旭市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について及び発議第2号、旭市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定についての2発議案であります。

それでは、議事日程の協議結果について申し上げます。

お手元に配布してあります平成19年旭市議会第3回定例会議事日程(その2)の2ページになりますが、9月26日、水曜日のおり、この後、追加日程第1、議案第24号を上程。追加日程第2、提案理由の説明。追加日程第3の議案の補足説明については、消防長を予定しております。また、議案の審査につきましては、委員会付託を省略して直接審議でお願いしたいと思います。追加日程第4、質疑、討論、採決。追加日程第5、発議第1号及び発議第2号の発議案を一括上程。追加日程第6、提案理由の説明。提案理由の説明については、2発議案とも私、神子功がいたします。追加日程第7、質疑、討論、採決。

以上でございます。

以上で追加日程の協議についての報告を終わります。

よろしく願いいたします。

議長（嶋田茂樹） 神子委員長の報告は終わりました。

おはかりいたします。議案第24号の1議案と発議第1号及び発議第2号の2発議案を本日の日程に追加し、直ちに議題とすることにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（嶋田茂樹） ご異議なしと認めます。

よって、本議案及び発議案を本日の日程に追加し、直ちに議題とすることに決しました。

追加日程第1 議案上程

議長（嶋田茂樹） 追加日程第1、議案上程。

議案第24号の1議案を上程いたします。

追加日程第2 提案理由の説明

議長（嶋田茂樹） 追加日程第2、提案理由の説明。

提案理由の説明を求めます。伊藤市長、ご登壇願います。

（市長 伊藤忠良 登壇）

市長（伊藤忠良） 本日、議案1件を追加提案し、ご審議いただくことといたしました。議案の提案理由についてご説明申し上げます。

議案第24号は、和解及び損害賠償の額を定めることについてでありまして、平成18年4月15日、旭市松ヶ谷1839番地先路上で発生した市消防署の救助工作車と普通乗用車との接触による人身事故について和解し、損害賠償額を267万5,448円と定めるものであります。

以上、追加提案いたしました案件の趣旨をご説明いたしました。詳しくは事務担当者から説明し、また質問に応じてお答えいたしますので、ご審議の上、ご賛同くださるようお願い申し上げます。

議長（嶋田茂樹） 提案理由の説明は終わりました。

追加日程第3 議案の補足説明

議長（嶋田茂樹） 追加日程第3、議案の補足説明。議案の補足説明を求めます。

消防長、登壇してください。

（消防長 佐藤眞一 登壇）

消防長（佐藤眞一） 議案第24号、和解及び損害賠償の額を定めることについて補足説明を申し上げます。

事故の内容は、平成18年4月15日日曜日、午前11時15分ころ、旭市松ヶ谷1839番地路上において、緊急走行中の救助工作車が徐行しすれ違う際、停車状態の普通乗用車と接触事故を起こし、普通乗用車の運転手が負傷したものであります。事故後の通院による医療機関から提出されました診断書によりますと、右肩打撲により10日間の加療を要するとされましたが、その後も右頸部痛、右肩関節の挙上制限、握力低下、右手の膨張により通院を続けていたものであります。その間、平成18年7月から8月にかけて調査会社に全国市有物件の依頼による医療調査を実施しております。その後、平成19年2月いっぱいをもって病態の改善が認められませんので、医療に関し本人の承諾のもとで打ち切りまして、自賠責保険による後遺障害認定を申請いたしましたが、認定はされませんでした。その後、損害賠償に関する交渉によりまして、平成19年8月31日に賠償金額を提示し承諾を得られましたために、地方自治法第96条第1項の規定によりまして、議会の議決を求めるものであります。賠償金額にありましては267万5,448円であります。

以上で、補足説明を終わります。

議長（嶋田茂樹） 消防長の補足説明は終わりました。

追加日程第4 質疑、討論、採決

議長（嶋田茂樹） おはかりいたします。議案第24号は、委員会付託を省略して直接審議することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（嶋田茂樹） ご異議なしと認めます。

よって、議案第24号は直接審議することに決しました。

追加日程第4、質疑、討論、採決。

質疑、討論、採決を行います。

議案第24号について質疑に入ります。質疑はありませんか。

神子議員。

24番（神子 功） ご質疑申し上げます。

事故の内容につきましてはご説明をいただきました。そこで、この事故の際に概要が書いてありますけれども、どちらが悪いという判断がいつも事故はつくわけですが、その辺の判断は公的な立場で判断をしてきたのか、それともどのような状況をもって今日まできたのかどうか、事故の当時のことにつきましてもう少し詳しくお願いいたします。

なお、消防署のこの工作車を運転していた方については、過失があったというふうに判断をしていれば何らかの措置が施されますけれども、その点はいかがかどうか、これが2つ目です。

そして、この和解の要旨ということで損害賠償金がございますが、これについては財源の措置はどのようになっているのかどうか、保険金で全部賄われるものなのか、それとも市の方で何らかの補てんをするものなのかどうか、この辺お伺いいたしたいと思います。

以上です。

議長（嶋田茂樹） 神子功議員の質疑に対し答弁を求めます。

消防長。

消防長（佐藤眞一） この事故の当時は、松ヶ谷でワゴン車が横転しまして、それによる救出途中でありました。当然のように、ワゴン車ですので、大勢いるだろうというような判断で当初は事故人数はわからなかったです。それで、救急隊2隊の消防隊2隊、それから救助工作車1隊の計5隊が出場しまして、その途中、松ヶ谷の坂を上がり、そして集落に入る路上でありますけれども、幅員5メートルでありました。そして、両側にガードレールがやっでありまして、非常にスピードを出しては絶対に走れないという状態でありました。そこで、相手側はガードレールのところにとまったんです。我々の方も徐行で走ったんですけれども、やはり最後の救助工作車の右側後部が出るところで、相手側の後部のバンパーをこすってしまったと、そういう状態でありました。

それで、事故の後の措置につきましては、当然のように警察官に来ていただきまして、それですぐにこの市有物件の方も連絡いたしまして、よしあしということに関しては、当然のようにこの警察官の判断、そして損害賠償についてはこの市有物件に一切を任したというこ

とでございます。そして、やはり運転者につきましては、二度ほど去年、警察に呼ばれまして結果的にはやはり安全運転をちょっとできなかったということで、5点の減点でありました。そして、この損害賠償の金額につきましては、全額この市有物件から出るようになっております。

以上であります。

議長（嶋田茂樹） 神子功議員の質疑を終わります。

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（嶋田茂樹） 議案第24号の質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（嶋田茂樹） 討論なしと認めます。

これより議案第24号について採決いたします。

議案第24号、和解及び損害賠償の額を定めることについて、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（嶋田茂樹） 全員賛成。

よって、議案第24号は原案のとおり可決されました。

追加日程第5 発議案上程

議長（嶋田茂樹） 追加日程第5、発議案上程。

発議第1号及び発議第2号の2発議案を一括上程いたします。

追加日程第6 提案理由の説明

議長（嶋田茂樹） 追加日程第6、提案理由の説明。

提案理由の説明を求めます。

発議第1号及び発議第2号について、神子功議員、ご登壇願います。

(24番 神子 功 登壇)

24番(神子 功) ただいま一括議題となりました発議第1号、旭市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について、発議第2号、旭市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定についての2発議案について提案理由をご説明申し上げます。

初めに、発議第1号について申し上げます。

本案は、地方自治法の一部改正により委員会にも議案を提出する権限が認められたこと、また会議録の電磁的記録による作成が可能となったこととともに、その他の規定の整備を図るため所要の改正を行うものであります。

次に、発議第2号について申し上げます。

本案につきましても、地方自治法の一部改正により委員会委員の選任が議長権限により可能となったこと、また、委員会会議録についても電磁的記録による作成が可能となったこととともに、その他の規定の整備を図るため所要の改正を行うものであります。

以上、発議第1号及び発議第2号の2発議案につきましてご審議の上、議員各位のご賛同を賜りますようお願い申し上げます、提案理由の説明を終わります。

議長(嶋田茂樹) 神子功議員の提案理由の説明は終わりました。

追加日程第7 質疑、討論、採決

議長(嶋田茂樹) おはかりいたします。発議第1号及び発議第2号の2発議案は、委員会付託を省略して直接審議することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(嶋田茂樹) ご異議なしと認めます。

よって、本発議案は委員会付託を省略して直接審議することに決しました。

追加日程第7、質疑、討論、採決。

質疑、討論、採決を行います。

発議第1号について質疑に入ります。質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

議長(嶋田茂樹) 質疑なしと認めます。

発議第2号について質疑に入ります。質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

議長(嶋田茂樹) 質疑なしと認めます。

以上で発議案の質疑は終わりました。

これより発議第1号及び発議第2号の2発議案について一括して討論に入ります。討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

議長(嶋田茂樹) 討論なしと認めます。

これより発議第1号及び発議第2号の2発議案について採決いたします。

発議第1号、旭市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、発議第1号は原案のとおり可決されました。

発議第2号、旭市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(嶋田茂樹) 全員賛成。

よって、発議第2号は原案のとおり可決されました。

日程第7 事務報告

議長(嶋田茂樹) 日程第7、事務報告。

事務報告を求めます。

総務課長、登壇してください。

(総務課長 高埜英俊 登壇)

総務課長(高埜英俊) 篤志寄附を受納いたしましたので、ご報告いたします。

1、金20万円を株式会社エステート・プロデュース様より7月3日受納いたしました。

1、児童図書84冊ほか50万円相当を佐藤吉子様より7月20日受納いたしました。

以上でございます。

議長（嶋田茂樹） 事務報告は終わりました。

日程第8 閉 会

議長（嶋田茂樹） 以上をもちまして、本定例会に提出されました議案等の審議は全部終了いたしました。

これにて平成19年旭市議会第3回定例会を閉会いたします。

長期間にわたり大変ご苦労さまでございました。

閉会 午後 1時30分

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

旭市議会 議長 嶋田茂樹

副議長 林俊介

議員 林一雄

議員 高木武雄